

[水稲部門 令和4年度 指導参考資料]

事項名	水稲の直播栽培における斑点米カメムシの殺虫剤散布適期		
ねらい	直播栽培における斑点米カメムシの防除は、出穂期等の生育様相が移植栽培と異なる一方で、移植栽培と同様の時期に行われる場合がある。そこで、移植栽培とV溝乾田直播栽培ならびに鉄コーティング湛水直播栽培圃場において同時期に殺虫剤散布を実施した結果、直播栽培における斑点米カメムシの薬剤散布適期が明らかとなったので参考に供する。		
指導参考内容	<p>1 直播栽培における斑点米カメムシの殺虫剤散布適期 移植栽培の散布適期より7～14日程度遅く、8月第4半旬後半から第5半旬前半頃に薬剤散布すると高い防除効果が得られる。なお、この時期は、直播栽培における穂揃10～14日後頃に該当する。(図1)</p> <p>2 栽培様式別の斑点米カメムシの発消長 出穂期以降、アカヒゲホソミドリカスミカメは栽培様式が異なる場合でも類似した時期に発生盛期となるが、アカスジカスミカメは直播栽培で発生時期が遅くなり、8月中旬以降に増加する。(図2)</p>		
期待される効果	直播栽培における斑点米カメムシの適期防除が可能となる。		
利用上の注意事項	<p>1 本資料は令和4年1月18日現在の農薬登録内容に基づいて作成した。</p> <p>2 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して使用者の責任のもとに使用すること。 「農薬情報」(https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/) 「農薬登録情報提供システム」(https://pesticide.maff.go.jp/)</p> <p>3 ジノテフラン液剤を使用した場合の試験結果である。</p> <p>4 アカヒゲホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメが混発する条件下での試験結果である。</p> <p>5 移植栽培圃場と直播栽培圃場が混在する条件下での試験結果である。</p>		
問い合わせ先(電話番号)	農林総合研究所 病虫部 (0172-52-4314)	対象地域	県内全域の水稲及び経営体 作付経営体
発表文献等	令和元年～令和3年度 農林総合研究所試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

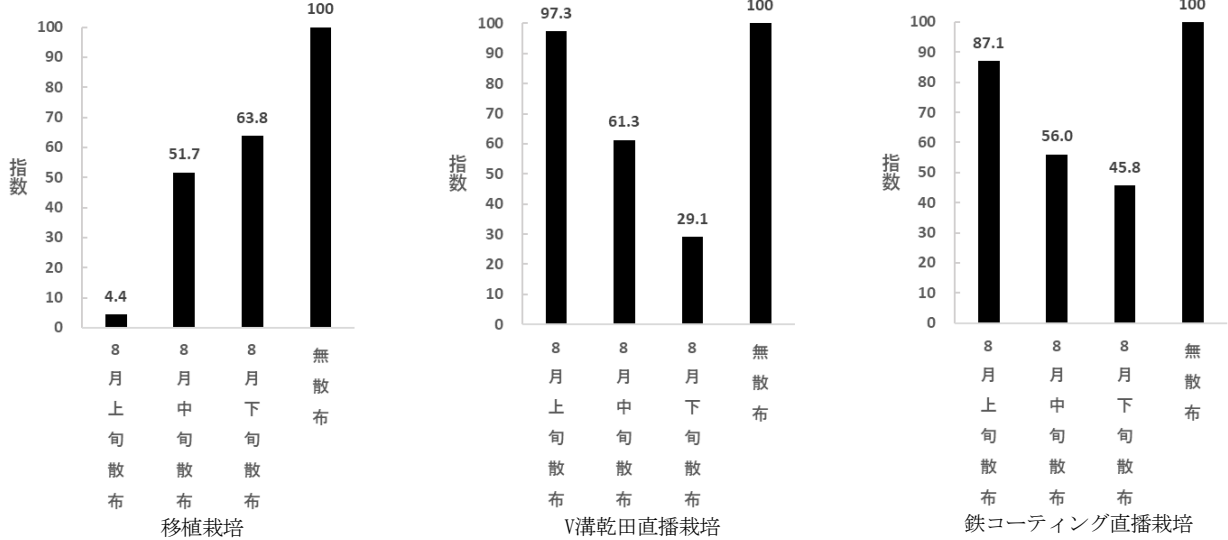


図1 栽培様式別の斑点米混入率の対無処理比平均値（令和元～3年 青森農総研）
 (注) 指数は無処理を100とした場合の3年間の平均値。

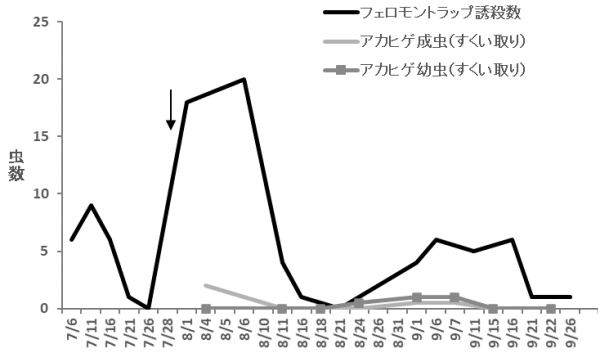


図2-A アカヒゲホトリカスカメの発生活消長（移植栽培）
 (注) 矢印は穂揃期を示す

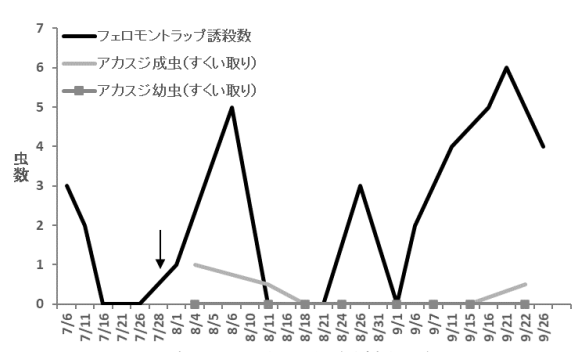


図2-B アカスジカスカメの発生活消長（移植栽培）
 (注) 矢印は穂揃期を示す

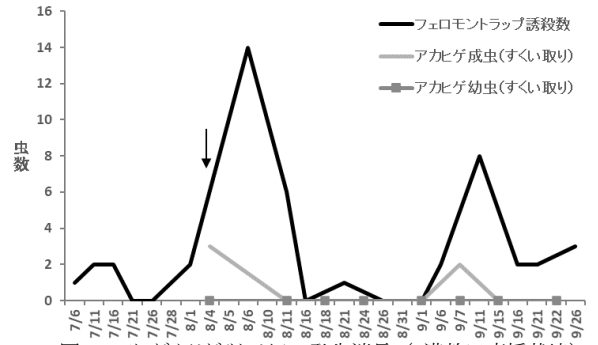


図2-C アカヒゲホトリカスカメの発生活消長（V溝乾田直播栽培）
 (注) 矢印は穂揃期を示す

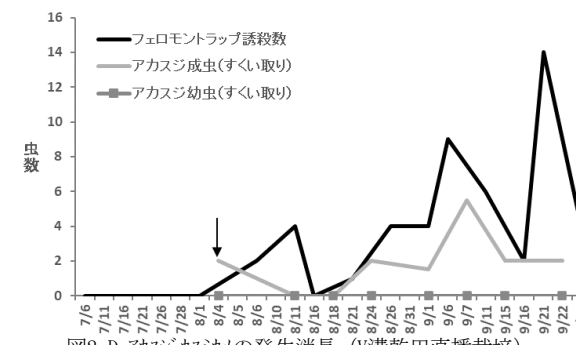


図2-D アカスジカスカメの発生活消長（V溝乾田直播栽培）
 (注) 矢印は穂揃期を示す

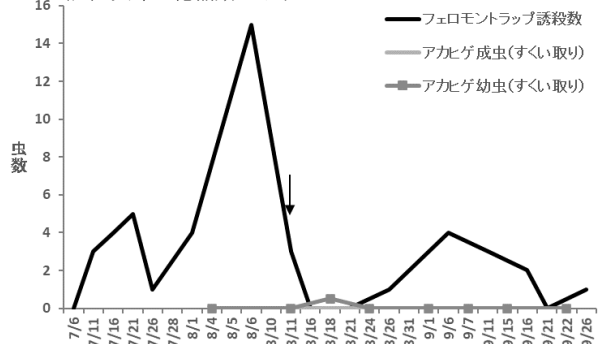


図2-E アカヒゲホトリカスカメの発生活消長（鉄コーティング直播栽培）
 (注) 矢印は穂揃期を示す

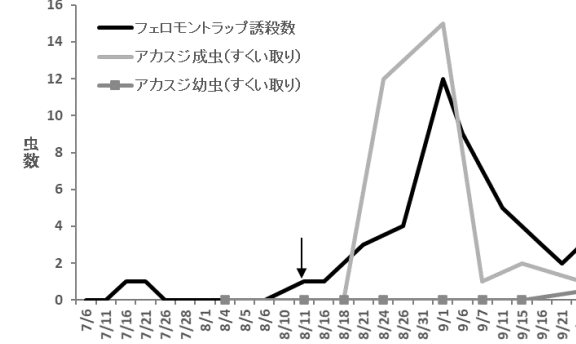


図2-F アカスジカスカメの発生活消長（鉄コーティング直播栽培）
 (注) 矢印は穂揃期を示す

図2 栽培様式別の斑点米カメムシの発生活消長（令和3年 青森農総研）

(注) すくい取り虫数は2反復の平均値